



「どんな女の子も好き」。保育士のマリコさんの言葉です。そう思ってくれる人が隣にいると、子どもには、それだけでいい。

けれど「それだけ」が非常に困難になっているのは、今の日本、児童養護施設に限ったことではないように思います。

愛情とは、何か特別なことをしてやったり、まして期待したりすることではない。なんでもない時間を共有し、ひたすら存在を受けとめること。

子どもとは、こんなにも愛情を必要としている生き物なんだと、せつなく、たじろぐほどでした。

俵万智(歌人)

映画のコメントはこれまでたくさん書いてきた。でもこの映画のコメントは難しい。なぜならば観るごとの意味を「これほどに強く呈示する作品を、僕は他に知らない。どんな言葉を紡いだとしても、この映画に及ばない」とはわかつている。

……ここまでを書きながら、「ここまで」の記述もまた、慣用句になってしまっていることが悔しい。これ以上は書かない。観てほしい。一人でも多くの人に。約束する。

ドキュメンタリーの可能性と人の豊かさを、絶対にあなたは実感する。
森達也(作家・映画監督)

「果たして、自分は我が子にとつて、ほんとうに隣る人なのか？」

突極の問いが突き刺さる。子どもと生きることは、キレイごとばかりじゃない。喜びも疎ましさも複雑にはらむのが、人とのコミュニケーションそのものだから、

親として、人の子としてこの世に生まれた以上、誰もが知る感覚に違いない。ところが、そんな弱音を持たず私のような大人の事情なんてもうこの世に、

子どもは日々、進化し、いつ何時もそこにある隔たまりのようなぬくもりを必要とするのだ。「光の子どもの家」の子どもの切実な想いは、かつて子どもだった自分の懐かしさと相ま

みれ、窒息するほど胸を締めつける。8年という日常に寄り添い、一切の誇張も、偏りもなく、これほどまでに静かに真実を見つめた映像が、未だかつて存在しただろうか。

見る者の知と情に委ねられた、まっすぐな問いは永遠に消えない。

内田也哉子(文筆/音楽活動)

まっさらな心でなければ情を感じないこの映画は、日常の暮らしの底で光を放つ「生命の真実」を、うるわしく、切なく写し出している。

人が心の底から希求している本物の願い、祈り、夢。そして人を真に悲しませるものの姿。さらに、人がどんなつらさにも耐えて、なお生きゆくことがなぜ可能なのか、胸迫るその答えもここににある。

いとおいしい子どもたち、いとおいしい人びと。観ながら涙し、観終えてこみ上げ、二度観(これを書いている今も心が揺さぶられている)。

天童荒太(小説家)

静岡市葵区東草深町3番18号
『アイセル21』1階ホール
①10:00～ ②13:30～
(上映時間85分)

- 前売
- ・800円(19歳以上)
 - ・400円(15～18歳)
- 当日
- ・1,000円(19歳以上)
 - ・600円(15～18歳)

※14歳以下無料
※子連れ可
(他の方のご迷惑になる場合は退席して頂く場合がございます)

■チケット販売所
【NPO法人まちなびや】静岡市葵区長沼631 Tel.054-264-7170
【ここあのいえ】静岡市葵区西千代田24-11 Tel.054-248-3010
【(有)北極しろくま堂】静岡市葵区宮ヶ崎町91 Tel.054-653-4700
【千代田スクール・英数教室】静岡市葵区千代田5-7-25-10 Tel.054-245-0049

■銀行振込によるチケット当日受け渡し方法
振込先:静岡銀行呉服町支店 普通 1881463
トクビ) place of peace
※振込後、お名前と枚数の確認のご連絡を下記のメールまたは電話までお願いいたします。
振込明細書、または振込が証明できるものをプリントアウトして当日受付までお持ちください。

■お問い合わせ
Tel 090-6610-8354(田中)
メール info@pop-s.org
HP <http://www.pop-s.org/>



メール



HP

■発起人: NPO法人 place of peace(プレイス・オブ・ピース) ■後援: 静岡市、静岡県児童養護施設協議会
■「隣る人」実行委員会: 板倉りえこ、NPO法人子育てサークルネットしずおか「こねっと」、NPO法人びゅあ、NPO法人まちなびや、NPO法人よしよし、お母さん業界新聞静岡版・杉本、(株)富士テックス・ニチプレ事業部、ここあのいえ、静岡県ボランティア協会、千代田スクール造形作家・多々良、母力向上委員会、パディプロジェクト、保育支援グループすわん、(有)北極しろくま堂、ラボ・パーティー・酒井、りとるきっず (50音順)